

1. 教育の責任

日本人の食事摂取基準策定の考え方、科学的根拠を理解し、健康の維持・増進および疾病予防のための食事摂取基準に基づいた食事改善の計画と実施、健康に影響を及ぼすリスクの管理について基本的な考え方や方法を修得する。

【食事摂取基準論（1年次 2単位）】

人が誕生してから一生を終えるまで、すなわち、妊娠、成長、加齢などに伴う人体の構造や機能の変化、栄養状態などの変化などについて理解し、さらに、対象者の栄養状態や心身機能に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方を修得する。

【応用栄養学（2年次 2単位）、応用栄養学実習（3年次 1単位）】

応用栄養学、栄養教育論、公衆栄養学などで得た知識や技術の総括として実践的な課題への取り組みを行う。

これまでに学内で学んだことを生かして、対象に即した実践を行う。

※スポーツをしている子供たちを対象に、スポーツ時の栄養に関する食育を行う。

【社会連携演習(健康)3年次 2単位】

2. 教育の理念

大学卒業後は大きな社会の変革のなかで、課題解決力をもち、栄養・食を通して人々の健康や幸福に貢献する管理栄養士となることが期待される。そのため、人間の生涯を胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期のライフステージに分けて、ライフステージごとの生理的特徴、栄養問題の特徴、栄養アセスメントの重要なポイント、エネルギー及び栄養素必要量の考え方、栄養ケア・マネジメント（栄養管理）の実践的な能力を習得することを目標とする。

3. 教育の方法

【教育の目的と目標】

各ライフステージにおける栄養ケア・マネジメントの基礎を PowerPoint などの独自資料を用いて効果的に学習し、実習の過程で課題・対象についての基礎的理論を背景として技能を習得する。その過程で生じた疑問は、授業後またはメール等で受け付け、早期に解決することとしている。また、自分自身も学会に所属し、最新の情報を学び、授業に取り入れるようにしている。学生には、基礎的な知識の習得だけでなく、将来その知識を生かしながら管理栄養士としての資質の向上を図り、人として成長も遂げることができるよう、知識習得と実践を重ねる。

【教育実践】

シラバスに基づき、主に PowerPoint で作成した資料を用い講義を行う。開発教材として、指定した教科書を購入してもらい、教材として使用する。授業後の質問は、その場またはメールで対応する。授業前には予習、その後復習の時間を授業外に設ける。講義授業ではまとめプリント、実習授業では栄養ケア・マネジメントシート（レポートとして）を使用する。講義授業では、知識習得度を計るため、まとめ試験を実施する。

4. 教育の成果

* 各ライフステージを学び、それぞれに対する栄養ケア・マネジメントを実習するため、臨地校外実習での特に高齢者、幼児に関わる実習の際や、将来の職業選択をする際の一助となり得た。

* まとめプリントの実施や実習レポートの内容については、学生から高評価を得た。

5. 改善への努力と今後の目標

* 知識の定着が先立ち、参加型の授業形式には及んでいない。今後はコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上とそれらの習得を目的とした授業内容（例えばグループワークや、プレゼンテーションの機会）を増やしたい。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：塩谷 亜希子 作成日：2025 年 1 月 6 日

【添付資料】

- * 日本人の食事摂取基準（2020 年版）
- * 応用栄養学 第 3 版 朝倉書店
- * 応用栄養学実習ワークブック（株式会社みらい）